

# トコブシ資源回復状況調査

天真正勝・上田幸男\*・宮本孝則\*

本県海部沿岸で 1995 年 8 月初旬を中心に発生した *Gymnodinium mikimotoi* による赤潮被害を受けたトコブシ資源についてその回復状況を調査した。

## 調査方法

### 1 殻長組成調査

牟岐地区で漁獲されるトコブシの基礎資料を得るため、現地調査を実施した。1996 年のトコブシ漁期中の 3 月から 6 月にかけて、水揚げされたトコブシの殻長等をパンチカードにより測定した。また、1995 年の結果との比較を行った。

### 2 人工種苗混獲調査

同地区ではトコブシの人工種苗放流が行われており、今後の放流効果把握のための基礎資料とするため、放流種苗の特徴である「グリーンマーク」を指標として、人工種苗の混獲率や再補サイズを調査した。また、前述と同様 1995 年の結果との比較を行った。

### 3 潜水調査

水深別のトコブシ生息数を把握するため、1996 年 12 月 4 日に同地区出羽島西側の通称「オオイシ」でスキューバ潜水調査を行った。水深 2, 4, 6, 8, 10m の 5 層を設定し、各層とも 1m 方形枠 4 カ所内のトコブシを採取し、殻長等を測定して同場所へ再放流した。また、前述と同様 1996 年 1 月 26 日に行った同様の調査結果とも比較した。

## 結果及び考察

### 1 殻長組成調査

殻長組成のヒストグラムを図 1 に示した。その結果、1995 年のモードは 56～58mm の範囲にあり、平均殻長は 55.1mm であったが、1996 年のモードは 50～52mm、平均殻長は 52.6mm であった。両年の比較ではモードは 6mm、平均殻長は 2.5mm 小さくなり、殻長が小型化したことがうかがえた。このことは、赤潮被害を受けたトコブシ資源への漁獲圧が小型群へ移行したことが考えられる。

### 2 人工種苗混獲調査

---

\* : 徳島県水産課

同地区でのトコブシ人工種苗の混獲率及び漁獲時の殻長組成を図 1 に示した。人工種苗混獲率は 1995 年は 6.0% , 1996 年は 5.7% であり , 赤潮被害後の 1996 年は 0.3% の減少となっている。これは , 同地区では人工種苗放流が例年漁期終了後の 7 月に実施されており , 1995 年の放流後約 1 ヶ月後に発生した *Gymnodinium mikimotoi* 赤潮の影響が放流後間もない人工種苗に及んだと考えられる。また , 人工種苗の漁獲時の殻長組成は 1995 年は 42 ~ 54mm が中心であったが , 1996 年は 50 ~ 62mm が中心となり大型化しているが , 前述した 1995 年放流群の減耗が考えられる。

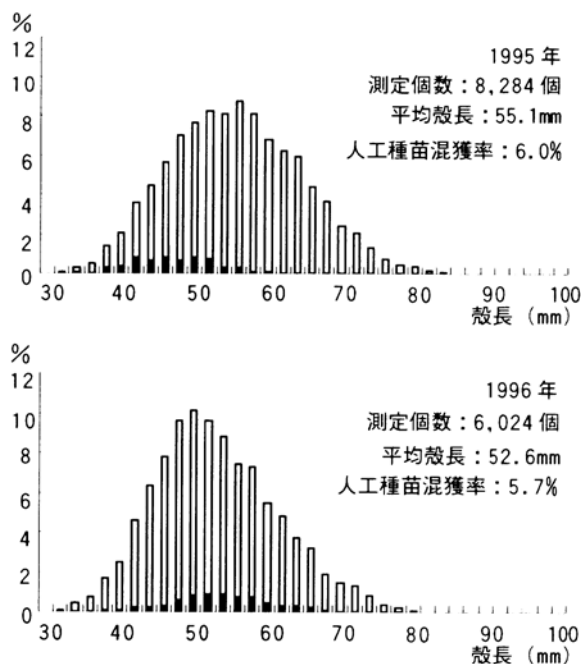


図 1 牟岐地区において 1995 年 , 1996 年に漁獲された天然及び人工種苗トコブシの殻長組成  
 : 天然貝 : 人工種苗

### 3 潜水調査

2 回次におけるトコブシの潜水による 1m<sup>2</sup> 当たりのトコブシ採集数を図 2 に示した。赤潮被害 6 ヶ月後の 1996 年 1 月 26 日では水深 2m での採集はなく , 4 ~ 10m で 3 ~ 7 個 / m<sup>2</sup> が確認された。次いで 1 年 4 ヶ月後の 1996 年 12 月 4 日でも水深 2m ではトコブシは確認されておらず , 8 , 10m ではややその密度は低くなっている。以上から , 1995 年の *Gymnodinium mikimotoi* 赤潮被害の直後は水深 4m 付近まではほとんどのトコブシが弊死していたが , 1 年以上経過しても水深 4m 以浅での生息は少ないものと思われる。

以上から , 赤潮被害により 1995 年のトコブシ母貝の減少に伴う産卵量が少なかったと思われるため , 今後も母貝集団の保護や人工種苗放流を組み合わせた資源管理手法の確立が必要と思われる。

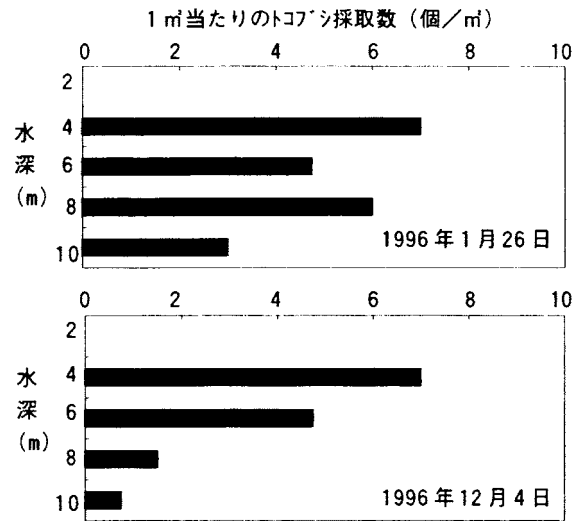


図2 1996年1月26日及び1996年12月4日における1m<sup>2</sup>当たりのトコブシの水深別潜水採取数  
(調査地：牟岐・オオイシ)